

下水道マンホール蓋のデザインと周辺景観

(株)奥村組 ○正会員 大槻 弥生 (株)奥村組 正会員 川嶋 英介

1. はじめに

近年、下水道マンホール蓋のデザインが多様化してきている。滑り止め機能を有しながら、その地域独特のシンボルマークや特産品、名所、歴史等をデザインしたものが多く見られるようになり、筆者は現地踏査を中心に調査を行っている。写真-1~4は、過去4年間の全国大会が開催された都市のマンホール蓋である。このような様々なデザインに興味を持つ人も多く、またテレビ番組等で紹介される例もあり、マンホール蓋が都市の景観の一つの役割を担ってきている。本稿では、マンホール蓋のデザインを特徴ごとに紹介するとともに、マンホール蓋が機能のみならず、景観や街並みに調和するデザイン性も重要な計画要素と考え、周辺景観との関係について考察する。



写真-1 第67回 名古屋市 (アメンボ)



写真-2 第68回 習志野市 (谷津干潟)



写真-3 第69回 豊中市 (マチカネワニ)



写真-4 第70回 岡山市 (桃太郎)

2. シンボルマーク等の事例

市町村シンボルをマンホール蓋のデザインとした例を写真-5~8に示す。筆者が調査した約2,500件のマンホール蓋の中で、最も多い事例である。写真-5の流山市は昭和61年に「下水道マンホール蓋デザイン20選」にも選ばれたもので、30年以上前からこのような華やかな蓋が用いられてきたことを示している。



写真-5 流山市 (市の花：つつじ)



写真-6 郡山市 (市の花・鳥・木)



写真-7 常陸大宮市 (市の花・鳥・木)



写真-8 糸魚川市 (市の花：梅)

3. 特産品等の事例

地域の特産品をデザインとした例を写真-9~12に示す。特産品は農産物がモチーフになる事が多く、民芸品を題材にした物も見かける。これらはその土地の特産品が一目瞭然で、訪れた人への広告として十分機能している。



写真-9 協和町 (茨城県, スイカとキュウリ)



写真-10 山ノ内町 (長野県, 志賀高原とリンゴ)



写真-11 寺泊町 (新潟県, 海産物)



写真-12 巻町 (新潟県, 鯛車)

キーワード マンホール, マンホール蓋, 街路景観, マンホール女子

連絡先 〒108-8381 東京都港区芝5-6-1 (株)奥村組 東日本支社 土木技術部 TEL03-5427-2322

4. 名所、歴史等の事例

名所や地域の歴史等をデザインとした例を写真-13~16に示す。名所や世界遺産・歴史を感じる旧跡をモチーフにした蓋もよく見かけ、題材は城・世界遺産・奇岩・橋など実にバラエティーに富んでいる。富津市のマンホールに描かれている橋は計画のみで頓挫した幻の橋という話だが、当時の意気込みが強く表れていて非常に興味深い。



写真-13 大阪市
(大阪城)



写真-14 韮山町
(富士山と反射炉)



写真-15 時津町
(長崎県, さばくさらかし岩)



写真-16 富津市
(千葉県, 東京湾口道路)

5. 意匠と周辺景観

以上例を挙げてきたように、特徴的なデザインを有するマンホール蓋は、滑り止め、転落防止機能を有するだけでなく、都市の街路景観の一部として機能し始めていると言える。ここで、街路景観としてのマンホール蓋の役割を分類すると、以下の2つに区分できる。

- ①調和するマンホール蓋：従来のマンホール蓋と同様に転落防止と滑り止め防止を主目的としているが、周辺景観に調和したデザインや色調を有するマンホール蓋 (写真-17~20)
- ②主張するマンホール蓋：それ自体が積極的に情報を発信するデザインを有するマンホール蓋 (写真-21~24)



写真-17 上三川町
(滑止の背景にシラサギ)



写真-18 川口市
(歩道のデザインと統一)



写真-19 藤沢市
(歩道のデザインと統一)



写真-20 鳥取市
(歩道の色調と統一)



写真-21 横浜市
(ベイスターズ)



写真-22 境港市
(鳥取県, 作者の故郷)



写真-23 大栄町
(鳥取県, 作者の故郷)



写真-24 広島市
(広島カープ)

このように、区分した「調和するマンホール蓋」、「主張するマンホール蓋」の選択が周辺景観との調和で重要になると考えられる。地域の周辺景観の創造には、道路構造物や公共、民間建築物等と同様に、事業者、管理者問わず、マンホール蓋の選択を含め総合的に検討していく必要が生じてきていると考えられる。

6. おわりに

本項では、これまで撮影してきたマンホール蓋のデザインについて、特徴ごとに紹介するとともに、マンホール蓋のデザインが有する機能を区分した。今後は周辺景観との関連性について評価し、深く考察していきたい。現在日本のほぼ5割のマンホールについて調査が完了したが、現在調査しきれない地域(特に北海道、四国、九州、その他離島)に対して調査活動を継続して行っていきたい。